

## 第2回那覇空港構想・施設計画検討協議会 議事概要

### 1. 開催日時

平成20年12月9日（火）8：30～9：20

### 2. 開催場所

沖縄県庁 4階講堂

### 3. 出席者

#### (1) 構成員

内閣府沖縄総合事務局長

福井武弘

国土交通省大阪航空局長

片平和夫

沖縄県副知事

仲里全輝

#### (2) オブザーバー

国土交通省航空局計画課空港計画企画官

大越康史

#### (3) 関係者

内閣府沖縄総合事務局開発建設部長

吉永清人

国土交通省大阪航空局空港部次長

八木千津男

国土交通省大阪航空局那覇空港事務所長

菅野顕

沖縄県企画部長

上原良幸

### 4. 主な議題

(1) 那覇空港構想段階に係る各委員会の結果報告について

(2) 構想段階P Iに提示する930m案の改良案について

(3) 那覇空港構想段階に関するP I実施計画（案）について

(4) 那覇空港構想段階P Iの実施内容（活動計画）（案）について

(5) 那覇空港構想段階P Iの情報提供・意見収集資料について

(6) 那覇空港構想段階の今後の進め方（案）について

### 5. 議事概要

(1) 事務局より、議事次第の議事に沿って各資料を説明し、その後、質疑応答がなされ、那覇空港構想段階に関するP I実施計画（案）、那覇空港構想段階P Iの実施内容（活動計画）（案）、構想段階P Iレポートの内容、今後の進め方について、了解がなされた。

(2) また、次回協議会に関し、第3回那覇空港構想段階P I評価委員会後に開催することが確認された。

(3) 本協議会における主な意見は、以下のとおり。

(イ) 詳細な検討をするために必要となるより詳細な地盤条件については、今後、検討することを想定している。

(ロ) 将来の自衛隊機と民航機の運用について、航空管制として望ましい運用方法を今後十分な議論をする必要があると認識している旨発言があり、これに対して、本検討では、原則、増設滑走路を着陸専用、既存滑走路を離陸専用で使用することにしているが、今後、国土交通省と防衛省で協議していきたい旨回答あり。

(ハ) レポートの航空需要予測において、2015年の年平均発着回数が既存滑走路のみの同回数を上回ることになっている。この結果が2015年には全て

の増加する利用客に対応できないのではなく、その一部については、機材の大型化等に対応できる可能性もあるので、住民説明会等において、丁寧に説明して欲しい。

- (二) 那覇空港のあり方は将来の沖縄を左右するものであり、沖縄振興発展が那覇空港によって制約されてはいけない。需要誘発型の考えをお持ちいただき、沖縄の将来の制約とならないよう、50、60年先、100年先を見据えた整備を願っている。今回のP Iでは、沖縄県と国と一体となって合意形成に向けて取り組んでいく考えである。
- (ホ) 那覇空港が沖縄県にとって非常に重要な社会基盤であることは認識しており、できるだけ県民のご期待に添えるよう一生懸命対応していきたい。
- (ヘ) 本プロジェクトは、沖縄県にとって、自立型経済の構築等のために重要、緊急性の高いプロジェクトであり、スピード感を持って、構想段階の結論を速やかにとりまとめ、次に進めていきたい。